

村を越えたつながり 「八ヶ所」

はつかしよ

長い歴史においては、いろいろな条件によって地域のつながりが形成されていきます。その一つとして「八ヶ所」というものがありました。

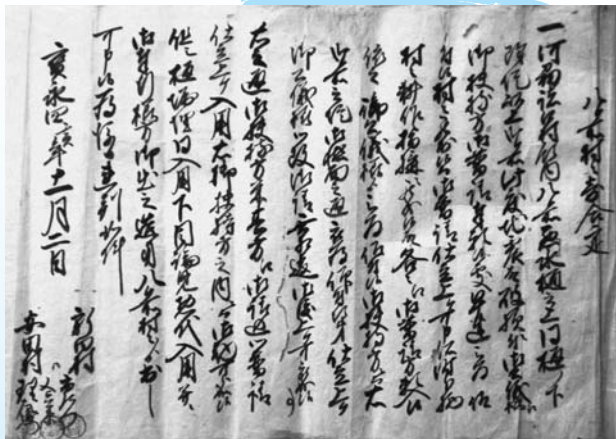
八ヶ所は、大東市域の西部から門真市と大阪市鶴見区までに広がる地域で、室町時代にその名が見られ、江戸時代中期には19カ村によって形成されていました。大東市域では、諸福村・新田村・御領村・氷野村・赤井村・太子田村が属していました。また、しばしば「八ヶ庄」とも表記されることから、中世にできた莊園が八つまとまったものに起源を持つとも考えられています。

八ヶ所は、深野池の西部に位置しており地形的に低地でした。桃山時代には深野池などの漁業権が認められましたが、農耕にとつては絶えず排水が課題となっていました。江戸時代には耕作に不要な水である「悪水」を排出する設備「樋」の管理が重要で、八ヶ所が協力してこれを管理していました。宝永4

(1707)年には地震によって破損した樋の修復が行われており、江戸時代中期以降には定期的な樋の取り換えが行われています。また、悪水を十分排出するために樋の大きさが決められており、樋の付け換え時にはそれを遵守することになっていました。

八ヶ所についての古文書は、11月末日まで歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)



地震のため破損した樋の修復について八ヶ所から依頼された古文書
〔宝永4(1707)年11月〕